

臨時総会が開催される

神奈川県弁護士会新聞

発行所
神奈川県弁護士会
横浜市中区
日本大通9番地
☎045-211-7707
URL <https://www.kanaben.or.jp/>

通常総会開催(予定)のお知らせ
日時 2026年6月23日(火)

神奈川県のアウトライ
ンと天稔をモチーフに
した神奈川県弁護士会
のロゴマークです。

山ゆり

最近の私のゴルフの師匠は、画面の中にいる。YouTubeを開けば、最新のスイング理論から「おすすめのギア」、

2月10日、横浜情報文化センター6階・情文ホールにて、臨時総会が開催された。開会に先立ち、司法研修所民事弁護教官を務めている熊澤美香会長が、司法研修所におけるこれまでの教官としての取り組みを中心とした活動報告を行った。

次いで、新倉武副会長による基幹業務システム刷新検討WTでの、同システム改善の進捗状況を中心とした報告が行われた。

畑中隆爾会長から開会の挨拶があり、島崎友樹会長が議長に、常磐重雄会長が副議長に指名され、正副議長による進行の下、7つの議案について審議が進められた。

第1号議案

神奈川県弁護士会弁護士業務市民窓口の設置等に関する会規(会規第34号)一部改正の件
市民窓口制度を担当する会員の負担増を受け、日当制の導入、担当員数の上限規定の撤廃、

第2号議案

公設事務所の運営支援に関する決議の件
特別担当員制度の創設に関する会規の改正である。審議の後、全会一致で提案どおり可決承認された。

第3号議案

神奈川県弁護士会照会手続会規(会規第20号)一部改正の件
特別担当員制度の創設に関する会規の改正である。審議の後、全会一致で提案どおり可決承認された。

第4号議案

神奈川県の急激な人件費の高騰や物価上昇により、弁護士会照会の手数料相当額を改定し、送料料含め、7500円(税込み8250円)とする議案である。

第5号議案

神奈川県の預り金の取扱に関する会規(会規第26号)一部改正の件
他の単位会の対応に関する質問や意見が出た後、賛成多数で提案どおり可決承認された。

第6号議案

神奈川県の預り金の取扱に関する会規(会規第26号)一部改正の件
濫用的な懲戒請求の際、数個の事案の調査の併合又は分離を決定するに当たり、対象弁護士等の意見の聴取を不要とする旨、及び綱紀委員会の調査終了の際の議決書等において、職務上の氏名を使用している者について戸籍上の氏名の併記を不要とする旨の会規の改正である。

第7号議案

綱紀委員会委員及び予備委員選任の件
全会一致で提案どおり可決承認された(なお、利害関係人はこの議案に参加せず)。

ブリック法律事務所の経営安定化のため、原則として10年間、家賃相当額給付を継続する方針を定め、必要に応じて支援内容の見直しを行う議案である。

「かなパブ」の存在意義や過疎地域支援の在り方について質問、意見が出た後、賛成多数で提案どおり可決承認された(なお、利害関係人はこの議案に参加せず)。

神奈川県の急激な人件費の高騰や物価上昇により、弁護士会照会の手数料相当額を改定し、送料料含め、7500円(税込み8250円)とする議案である。

神奈川県の預り金の取扱に関する会規(会規第26号)一部改正の件
他の単位会の対応に関する質問や意見が出た後、賛成多数で提案どおり可決承認された。

神奈川県の預り金の取扱に関する会規(会規第26号)一部改正の件
濫用的な懲戒請求の際、数個の事案の調査の併合又は分離を決定するに当たり、対象弁護士等の意見の聴取を不要とする旨、及び綱紀委員会の調査終了の際の議決書等において、職務上の氏名を使用している者について戸籍上の氏名の併記を不要とする旨の会規の改正である。

映画上映会 講演会

それぞれの考え、それぞれの生き方

2月28日、当会会館において、特定非営利活動法人SHIPと当会共催によるイベント「性的マイノリティが包摂される社会へ」特にトランスジェンダーの生きにくさについて」が開催された。

当日は、41名もの参加があり、アンケートも概ね高評価であった。

第一部では、SHIPの臨床心理士・公認心理師である宮島謙介氏による「性的マイノリティに

対する理解」の講演、第二部では、河上りさ氏が監督を務めた映画「鏡をのぞけば」押された背中」の上映、第三部では、SHIPの臨床心理士・公認心理師である片桐亜希氏による「すべてのトランスジェンダーが包摂される社会へ」の講演が行われた。

第一部で上映された映画は、トランスジェンダーの方が自分自身と向き合い、その生き方を決めていく様子をリアルに描いており、登場人物の意思決定の尊さを感じる内容であった。監督の河上りさ氏、広報の山科みき氏が遠方から駆けつけ、上映後には、軽快なアフタートークがなされた。制作に至った経緯や撮影の裏話を聞き、より一層映画に込

められた想いを感じ取ることができた。LGBTQを取り扱う作品は年々増えてきているように感じる。しかし、筆者の知人はこうした作品を見て、「これはあくまで作品であって、俺たちの生活はもっと地味で、普通だよ」と言っていた。数々の作品により、LGBTQに関する理解が深まってきたことは事実だが、その一方で、作品で描かれている人物だけを見て、画一的なイメージが作られてしまっていると感じることもある。

会場では、「トランスジェンダーのリアル」の展示が行われたが、そこにはそれぞれの考え、それぞれの生き方がリアルに記されていた。LGBTQ当事者であることはその人の一面に過ぎず、当事者それぞれに別の考え、生き方があるというごく当たり前のことを、改めて認識しなければいけないと強く感じたイベントであった。

上映の様子

（会員）金本 忍

最近の私のゴルフの師匠は、画面の中にいる。YouTubeを開けば、最新のスイング理論から「おすすめのギア」、果ては「ラウンド中のマナー」まで、膨大な動画が溢れている。期日や打合せの前にはすっかり空いてしまったスキマ時間でもレッスンが受けられるのだから、本当に便利になったと思う▼しかし、現実には甘くない。動画で学んだスイング論は練習場で再現することも難しく、ましてラウンド中の様々なコンディションの前にすれば果敢なく霧散する▼そこで痛感するのは、情報の量よりも、目の前の状況に応じた判断の難しさだ。高価なギアを揃え、動画でマナーを学んでも、実際の芝の上で求められるのは、何千、何万と繰り返した基本の徹底と、同伴者やキャディへの細やかな配慮という、現場ならではの呼吸なのだ▼これは、我々の実務にも通じる。判例検索や生成AIで「答え」らしきものはすぐ手に入るようになった。だが、それらをどう組み合わせ、事件という「現場」に反映させるかは、やはり実際の経験値がものを言う▼スマホを置き、土や風を感じながらクラブを振る。情報の海で溺れそうになる日常から離れ、自らの感覚を研ぎ澄ますこの時間は、私にとって最も贅沢で、欠かせない修行の場となっている。

（若林 将大）



総合法律相談センター 開設40周年記念行事

祝賀 動き続けてきた40年

当会総合法律相談センターは、3月に開設40周年を迎えた。これを記念して、2月25日、横浜ベイホテル東急にて、「神奈川県弁護士会総合法律相談センター」が開催された。同センターに関わりがある神奈川県内の裁判所・自治体・事業者団体・士業団体等をお招

きしたところ、34団体から多くの関係者にお越しいただき、総勢149名が参加する盛大な祝賀となった。畑中隆爾会長の開会挨拶に始まり、横浜地方裁判所の佐々木宗啓所長、横浜家庭裁判所の阪本勝所長、横浜市民局広聴相談課の武井陽子担当課長、川崎市市民文化局長、川崎市推進部市民活動推進課の片倉哲史課長、日本司法支援センター神奈川地方事務所の佐藤昌樹所長による祝辞、飯田信也常議員会副議長による乾杯挨拶と続いた。

みみんとのるんもお祝いにつけました

歓迎後には、他士業団体のバラエティ豊かなご挨拶をいただいた後に、

同センターのこの10年の歩みをまとめたスライドショーを放映し、狩倉博之元委員長による活動報告、渡部英明委員長による閉会挨拶と続き、あつという間にお開きとなった。各スピーチやスライドショーからは、この10年間、同センターが実に様々な活動をしてきたことがよく分かった。その全てが成功したかはさておき、様々な手を打って動き続けてきたことが現在の状況につながっているものと思われる。

次は50周年という大きな区切りの年に開かれるはずであるが、現在を上回る活況のうちにこれを迎えるべく、これからの10年も前進を続けたい。(会員 中野 智)

記念セミナー

会場とオンラインのハイブリッドで開催

2月2日、講師に狩倉博之会員を迎え、当会総合法律相談センター開設40周年記念行事「契約セミナー」の『読み方』『直し方』が、

開催された。同セミナーは、当会会館での会場参加とウェビナーを用いたオンライン参加のハイブリッド開催であり、平日の日の開催にもかかわらず、合計137名(会場：18名、オンライン：119名)もの参加者を集める盛況ぶりであった。

軽妙な語り口の狩倉会員

講師である狩倉会員の講義は、契約書を読む際の着目点等について平易な言葉で語り、ひな形を実際の契約書

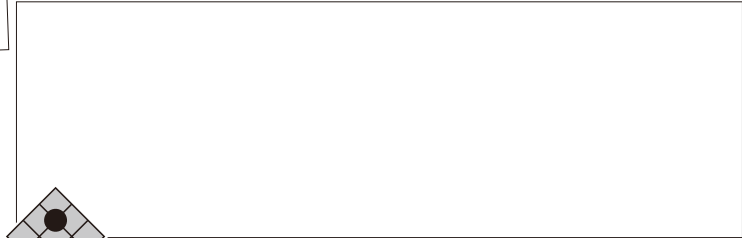
に落とし込む「直し方」を教示するなど、民法の基礎知識から実務上の注意点まで語られ、多岐にわたる内容が講義時間内に集約され、情報量の多い非常に濃密な内容であった。また、比較的難易度の高い内容であったにもかかわらず、講義中は、参加者が時にうなずきながら熱心に聞き入る様子が見てとれた。一方で、講師は自らの体験談について落語を想起させるよう

(副会長 杉原 弘康)



盛況！自熱の優勝稲葉翔

4戦全勝



最後は参加者皆で景品を手に記念撮影

2月22日、当会会館にて、神奈川県弁護士会協同組合主催の囲碁大会があり、当会職員と当会職員の計13名が参加した。大会はハンデ戦で各人計4局の対局を行い、一日中熱戦が続いた。結果は数年ぶりに大会に参加した稲葉翔会員が、ハンデを活かした手堅い打ち回しで、ブランクを感じさせない強さを見せ、4戦全勝で優勝し、準優勝は3勝1敗で当会職員の三浦隆志氏、3位は同じく3勝1敗の三浦修会員(現会長)であった。今大会の入賞景品は、

協同組合の特約店である万葉倶楽部と高島屋で購入したものであるが、いずれも入賞した会員に非常に好評であった。(なお、万葉倶楽部の特約利用料の割引)は協同組合ホームページに記載の割引券の提示、高島屋の特約(利用金額の5%割引)は友の会(横浜店は店舗7階)での会員証の提示で簡単に受けることができる。ちなみに筆者は所内の事務員への差し入れの際などに高島屋の特約を利用してはいる。)

(会員 木南 公成)

協同組合主催



将棋大会 優勝種村求

4戦全勝

2月23日、当会会館にて、神奈川県弁護士協同組合主催の将棋大会が開催された。当日は会員及びその家族の合計16人が参加し、全員が4局ずつを戦って順位をつける方式で行われた。

結果は種村求会員が、盤石の指し回しで4戦全勝、優勝を飾った。筆者は、2戦目の種村戦で、序盤から作戦負けをして完敗。それでも、1戦目と3戦目で勝利し、4戦目は三浦修会員(現会長)との対局。終盤までこちらが攻めていて優勢を感じていたものの、途中で勘違

いがあり、気付けば必敗に。最後は三浦会員が筆者の玉を詰まして勝ち、と思いきや、持ち駒の銀を打つべきところで金を打ち、詰みを逃してしまっ。三浦会員は「失敗しちゃった!!」と大声で叫び、周囲の注目を集めた。結局、実感はないものの筆者が勝ち、3勝1敗で全体3位に滑り込んだ。)

(会員 山口 陽)



優勝した種村求会員(左端)

囲碁大会と同様に将棋大会でも、成績優秀者や敢闘賞獲得者への景品は協同組合の特約店で購入した商品であった。3位となった筆者は、高島屋のカタログギフトとスー

熟議を尽くすことが

できたと思います

議長 金谷 達成

常議員会は総会に次ぐ議決機関であり、その重要な機関の議長職をいただいたことに心より感謝を申し上げます。拙い進行だったとは思いますが、臨時開催を含め計15回の会議を無事に完了させることができたのも、常議員、理事者、事務局の皆様のおかげである。改めて感

謝申し上げます。議長は一瞬も気が抜けない。どこから何が飛んでくるか分からず、「この人の言いたいことは何か」を正確に理解するため、全神経を集中しなければならぬ。周囲からは、「金谷さんは、いつも冷静で、涼しい顔」等と言われるが、そんなことはない。終了時は、いつも立ち上がるのもやっとならぬ状態であった。飯田信也副議長の支えがなければ、何もできなかった。私にとって、生涯忘れることがないであろう恩人である。

昨年11月の小田原での開催は、私なりに思い切った決断であったが、大成功だったと自負している。当会は本部、支部一体であり、その全体で神奈川県弁護士会である。そのことを改めて体全体で感じることができたよい機会であった。今後も、年に1回でも支部開催ができないか、あるいは、通常総会の隔年支部開催はできないものか等と想うところである。

いずれにしても、ベテラン、中堅、若手を問わず、活発に発言していただき、熟議を尽くすことができたと思う。当会の底力を改めて実感できたことは、何よりの幸せである。

常議員会正副議長 退任挨拶

1年間ありがとうございました

副議長 飯田 信也

年度副会長であったため、気力と体力が続くか不安ではあったが、無事に1年間を終えることができました。

それは、金谷議長の素晴らしい議事進行を抜きにしては語れない。金谷議長は、常議員が質問や意見を述べやすくなるために、議案の内容に依りて適切な間をとったり、常議員からの質問を適切にまとめて趣旨を確認

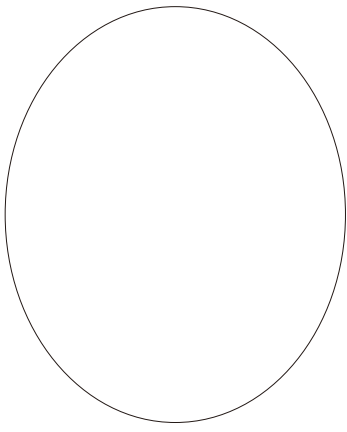
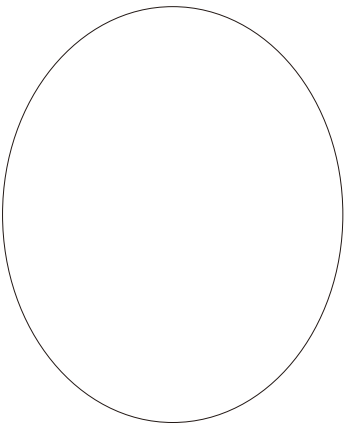
し、理事者に適切な答弁をさせる配慮をしたりなど、十分な議論を経るという意思決定のプロセスをとって大切されていた。副議長の仕事の一つは、議長を補佐し、議事が円滑かつ公正に行われるよう努めることであるが、金谷議長の手腕のおかげで、全く負担を感じることがなかった。

副議長のもう一つの仕事は、常議員会速報の作成であるが、これにはかなりの労力を要する。議論が盛り上がり、質問や意見の趣旨を整理しながら、かなりの分量のメモを取る必要がある。このメモを更に原稿にするのであるが、速報である

がため、一休みすることができない。速報の作成に当たっても、金谷議長にいろいろと助けていただいたので、過度な負担なく速報を作成することができた。

昨年度の常議員会速報では、常議員会での議論状況が分かりやすく伝わるように、例年より情報量をやや多めにした速報の作成に取り組んだ。これでもまだ不十分のご意見もあるかもしれないが、かなり大変な作業なので、ご容赦いただきたい。

最後になりますが、常議員、理事者、議長及び担当事務局の皆様にご挨拶申し上げます。



金谷達成議長から、「私

たい。」との打診を受け、副会長退任直後に常議員

が議長になったら、是非、副議長に就任した。前

副議長をやっていたとき

読者を思い浮かべた執筆を 皆さんから記者クラブ

「五ノ井さんというと柔道着で「世界の女性」に選ばれた強い姿が印象的だったが、取材では「何度も腹にナイフを当てた」としたことがある。記者になって4年目だが、うち3年は警察担当で、より早く、より具体的に書くことが正解だと思っていた。捜査関係者から聞く容疑者の話ばかりに耳を傾け、被害者を想像することはほぼなかった。友人の言葉を受け、入社後に自分が書いてきた記事は大丈夫だったんだろうかと一気に青ざめた。

ともある」と、訴訟中の苦しさが出た。また、自分の記事の見出しに取られた言葉で読者から自身を誤解され、つらかったとも話してくれた。性被害は訴訟を取らせていただいた。五ノ井さんというと柔道着で「世界の女性」に選ばれた強い姿が印象的だったが、取材では「何度も腹にナイフを当てた」としたことがある。記者になって4年目だが、うち3年は警察担当で、より早く、より具体的に書くことが正解だと思っていた。捜査関係者から聞く容疑者の話ばかりに耳を傾け、被害者を想像することはほぼなかった。友人の言葉を受け、入社後に自分が書いてきた記事は大丈夫だったんだろうかと一気に青ざめた。

(社)共同通信社 横浜支局 大村 響

研究会

「精神疾患を含む障害者への合理的配慮について」

2月5日、当会会館及びZoomにおいて、貧困問題対策本部主催で表題の研修会が開催された。貧困問題対策本部の自死問題対策部会では、自死やメンタルヘルスの関わる案件に関する法律知識や医学的知識の研鑽を目的とする研修会を毎年1回開催している。

今回の講師は当会の徳田暁会員が担当した。徳田会員は高齢者・障害者の権利に関する委員会の委員長の経験もあり、この分野に精通している。合理的配慮については、どのような対応を求めることができるのか、イメージをつかみにくいところがあるが、講義の中で具体例を交えて分かりやすく説明がされた。配慮の具体的内容については、ガイドライン等に従ってある程度は定型的に決まっているものと

熱弁を振るう徳田会員

も、配慮を求める労働者や顧客の側に立つ場合はもちろん、自らが雇用する事務員等や依頼者に対してどのように対応すべきか、同ハンドブックの活用を含め、知識をアップデートしておく必要性を強く認識した研修会となった。

(会員) 谷川 献吾

畑中執行部の1年～色々ありました～

活動トピックス

4月

執行部スタート!

ホテルニューグランドでの就任披露パーティー。華やかな門出。4つのキーワード披露!

4～6月

各支部訪問

兜(かぶと)の前で決意を新たに(横須賀)。現場の声を聴く旅の始まり。

8月

関東十県会(長野)

世話人会として運営に奔走。信州の地で他会と熱く議論。

9月

再審法改正運動(桜木町)

黄色いピブスで街頭宣伝。仕事を終えた会長の背中をご覧あれ!

12月

会員集会(年2回開催!)

会員の意見を広く聞くべく2回開催。ウェビナーも取り入れました。

12月

人権大会(長崎)

長崎の夜。留守番のはずの新倉副会長が「看板」で飛び入り参加!?

1月

常議員会で合議

「充実した審議」のため、PCを囲んで真剣かつスピーディーに合議。

3月

最後の街頭宣伝(桜木町)

熱い思いで、拡声器演説もピラ配りもすっかりお手の物に。

始球式 in ハマスタ

プロ野球オープン戦で、会長が見事なサイドスロー投球を披露!

皆様、1年間のご声援ありがとうございました!

メンバー紹介

実はこんな人たち(?)

夜になると変身(?)
新倉 武



みんなの癒やし
「むらっくま」
村上 慶一郎

執行部のストレスを吸収するオアシス。彼がいれば会議の空気もふんわり。

金庫番かつ影の筆頭
石塚 陽子



じゃんけん最強、執行部の財布とパワーバランスを握る(長野の齋藤会長よりじゃんけん大会優勝の商品を授与された写真)。

微笑みの戦略家
飛田 憲一



悪だくみ大好き(?)な知略家。その穏やかな顔の裏で次なる一手を練る。

突破力抜群の筆頭
長谷山 尚城



キャラに挟まれても消えない存在感と勢いで何とか会務を進める。

我らが大将
畑中 隆爾



事務局の人気を独り占めしていた副会長時代を経て、ついに会長へ、言葉にこだわりを持つ。

最後は全員、最高の笑顔で!

色々あったけれど、この6人だから完走できた。最高の笑顔で。

編集後記

ピアノと防音というのは切っても切れない関係にある。

電子ピアノやサイレントピアノはサンプリングされた音であり、素人の私が弾いてもいまいち味

気ない。他方で、アコースティックピアノで騒音をまき散らすというものが近所の手前やはり考えものだ。

巷にランドピアノの中古が多く出回っているが、その一部にはこうした防音問題を理由として手放された物もあるだろ

デスク
記者 千歳 博信
伊藤 暢章
小川 友深
金本 忍
高橋 健二
山口 陽
若林 将大
渡邊さち穂

う。寂しい話ではある。

研修会

住家被害認定調査の実際

調査票の見方を中心に

2月2日開催

被災者向けの公的支援制度の多くは、「住家被害認定調査」の結果である「罹災証明書」の認定と結び付いており、認定

結果によって受けられる支援内容が異なり、半壊以下では全く支援が受けられないものもある。再調査請求が可能なため、被災地の相談会では、認定結果に不満を持ち、「罹災証明書」や、その元となる調査結果を記載した「調査票」を持参して来られる方も少なくない。

o m ウェビナーのハイブリッド形式による研修会を開催した。

この調査自体は被災地の行政職員が行うもので、また、建物被害の評価は弁護士には専門外という見方もあるが、困っている相談者を前に、調査票の見方も分からないというのでは心もとない。

本テーマを適切に解説できる方は少なく、貴重な機会であることから、神奈川県大規模災害対策士業連絡協議会を通じて、他の士業にも広く開放した結果、建築士、不動産鑑定士、司法書士、行政書士も多数参加した。

この度、神奈川県建築士会の協力を得て、湯本和正氏(長野県建築士会理事・防災委員長)をお招きし、当会会館と乙

被災者支援に向けた神奈川県の上業団体の結束力を示すことができ、大変多いものとなった。(災害対策委員会委員長 伊東 克宏)